

2021年06月15日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【ドル/円の値動きが底堅い】

タイトルに述べた通りに、ドル/円の値動きが底堅い。

ドル/円の日足チャートを見ても、今年(2021年)の4月下旬に、107円台ミドルに下落した後は、じり高に推移し、直近の値動きでは、110円台に上昇している。

ドル/円がじり高に動いた理由のひとつには、クロス円での「円安」が挙げられる。

クロス円の代表であるユーロ/円を見ると、昨年(2020年)の5月に安値114円台を付けてから、ユーロ/円は上昇に転じて、大きく上昇を続けている。

ユーロ/円のその上昇の過程では、大きな調整局面(調整の下落局面)もあったが、大局で見れば、上述の昨年(2020年)5月の安値114円台から、現在(2021年6月)に至るまで、じり高傾向を維持継続している、と言える。

なお、現在(2021年6月15日)のユーロ/円の水準は、このところの最高値圏で、133円台にある。

このところのユーロ/円の最高値は、今月(2021年6月1日)に付けた134円台だ。

今後のユーロ/円が最高値を更新する場合は、新たな「買いシグナル」であり、その場合は、ユーロ/円が、もう一段高となる可能性が高い、と考えている。

通常のユーロ/円などのクロス円は、ドル/円が主体性を持って動き、そのドル/円の上下動の影響から、ユーロ/円などのクロス円が、後追的に上下することが多い。

ところが、このところのドル/円の値動きには、概して主体性が見られない。

その結果、ユーロ/円などのクロス円の影響が勝り、ユーロ/円などのクロス円が、先行する形で、ドル/円が後追いしているように映る。

例えば、あまり良くないのだが、「犬が尾を振っている」のではなく、「尾が犬を振り回している」といったイメージなのだ。

先に述べた通りに、ユーロ/円は、昨年(2020年)の5月以降、大きく上昇トレンドに従っており、なおかつ、ユーロ/円は、現在、最高値圏にある。

そして、ユーロ／円が最高値を更新する場合は、ドル／円でも、「ドル買い円売り」が出るであろう、と考えている。

尾が犬を振り回すからだ。

+++++

(2021年06月15日東京時間15:45記述)